

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県 _____

【学校名】 筑紫野市立筑紫野中学校 _____

【テーマ】 I II **III** IV V _____

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

いっしょに走ろう！

【実施学年、部、講座等】

第2学年（男子102名・女子119名）

【目的・ねらい】

オリンピック・パラリンピック（特にパラリンピックや障害者スポーツ）について学習することにより、スポーツの素晴らしさや多様な関わり方について考える良い機会とする。また、2016年のリオ大会、2020年の東京大会に向けてその機運を高めるきっかけとしたい。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科(保健体育) ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
- ・教科以外での取り組み ()

【実践内容等】

(実施内容)

事前 『アンケートの実施』…事前に生徒の意識と予備知識についての調査を目的として実施した。

1 『オリンピズム・パラリンピズムの価値についての学習』

…オリンピックとパラリンピックの価値についての学習を中心に授業を実施した。

2 『パラリンピックと障害者スポーツについて』

…1を受けて、パラリンピックと障害者スポーツに焦点を絞って様々な競技や大会、選手について学習を実施した。

課題 『オリンピック・パラリンピックに関する調べ学習』

…1, 2を受けて、オリンピックとパラリンピック（障害者スポーツを含む）に関する調べ学習を冬季休業中の課題として実施した。（1人2部作成）

3 『アスリートの魂～終わりなき挑戦 視覚障害者ランナー 道下美里～』（TV番組）を使った学習

…これまでの学習を受けて、障害者スポーツを取り巻く環境や講演会に向けての事前学習と位置付けて実施した。

4 『ブラインドランナーとガイドランナー体験』

…講演会に向けての事前体験学習と位置付けて実施した。



5, 6 『講演会「いっしょに走ろう」(パラリンピアン：道下美里さんと伴走者：堀内規生さん)』

…スポーツを「する」「みる」「支える」の視点から講演をしていただいた。



事後 『アンケートの実施と講演会のまとめ』

…事後の生徒の意識の変容とこれまでの学習効果についての調査を目的として実施した。

『オリンピック・パラリンピック・ギャラリー』の設置

対象生徒である2年生のフロアに『オリンピック・パラリンピック・ギャラリー』を設置した。

日常生活の中で、生徒が自由に見ることができることをねらいとした。



(実践上の工夫点、留意点等)

- ・今回の取組において最も重要視した点は、「走る」という、誰もが行う運動をテーマにしたことである。これは、学習を進める際に、運動の得意不得意や、運動に対する興味・関心の差によって学習効果に違いが出ることを最小限にとどめたいと考えたためである。
- ・教材研究と講師の選定に多くに時間を費やした。さらに、短期間の取組であるため、学習効果を上げるために、授業はもちろんであるが、授業以外の時間においても生徒が学ぶことができるように『オリンピック・パラリンピック・ギャラリー』を設置した。

(成果)

『事前』のアンケート結果より、オリンピックやパラリンピック、障害者スポーツについての意識は、次のような結果となった。

	オリンピック	パラリンピック	パラ以外の障害者スポーツ	デフリンピック	スペシャルオリンピックス
言葉の認知度	100%	95.5%	79.1%	4.4%	1.5%
観たことがある	93.0%	33.3%	10.4%	4.4%	1.5%

オリンピックについては、ほぼ全員が「知っている」「観たことがある」と答えたが、パラリンピックやパラリンピック以外の障害者スポーツに関しては、多くが「知っている」が「観たことがない」という結果となった。また、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント教育」という言葉に対して、62.6%の生徒が「楽しみである」「どちらかといえば楽しみである」と回答した。

①において、生徒は、初めて「知る」内容が多く、新鮮な気持ちで授業を受けることができた。授業の感想では、次が楽しみであると90.5%の生徒が回答した。映像や記事を紹介しながら実施したことが生徒にとって良かったようである。また、ロンドンパラリンピックのCMを次時の予告に使ったことも良かったようである。

②においても、初めて「知る」内容が多く、新鮮な気持ちで授業を受けることができた。授業の感想では、次が楽しみであると91.5%の生徒が回答した。この授業においても映像を多く取り入れたことが生徒にとって良かったようである。特に、各種目の日本代表チームのPVや「デフリンピック」や「スペシャルオリンピックス」の映像は生徒にとって興味・関心が高かった。

課題については、①、②の学習を経て、各自が興味ある内容を深く掘り下げることができた。オリンピックのポスターやオリンピックに関係する楽曲等を調べてくる生徒もいた。提出状況もよく、興味関心の高さがうかがえた。

③、④については、初めて「知る」内容以外にも、地元の選手であることや保健体育科をはじめ、何度か授業で取り上げられたことのある番組で特集されたこと、実施中の単元が「長距離走」であったことなどから、③、④に向けては、それぞれ92.0%、100%の生徒が、次が楽しみであると回答した。③で「知る」④で「体験する」、そして⑤、⑥で「深める」という4時間はとても有効であった。

事後のアンケート結果より、オリンピックやパラリンピックについて、次のような結果となった。

	事前調査	事後調査	増
2016年の「オリンピック」リオ大会をテレビ等で観ますか	2.78 / 4	3.42 / 4	+0.64
2016年の「パラリンピック」リオ大会をテレビ等で観ますか	2.42 / 4	3.37 / 4	+0.95
「スポーツに関わるボランティア活動」についてどう思いますか	2.48 / 4	2.93 / 4	+0.45

○今夏のリオ大会については、生徒の関心を高めることに成功したと言える。特に本校がテーマとしたパラリンピックについてはオリンピックと変わらないくらいの関心があった。これは、「知る」「体験する」「深める」と段階をおった丁寧な学習や、効果的に映像教材を使用したこと。地元出身であり、かつメディアへの露出が多い講師を招聘することができたことが大きな要因であったと考える。また、今回の講演の様子等を含む講師のドキュメンタリー番組が3月にNHK、4月にRKBで計画されており、その後のリオ大会まで、生徒の目に触れる機会も多々あることが予想できる点も大きな要因であると考えられる。

○『オリンピック・パラリンピック・ギャラリー』については、授業で使用した映像、書籍、生徒のレポート、新聞やネットの記事を置いた。授業で学ぶことだけでなく、移動教室の際や昼休みの中

で生徒の足を短時間止めることができ、オリンピックやパラリンピック、障害者スポーツへの興味・関心が高まっていったと考える。

○その他の成果として、今回の学習において、「パラリンピックと障害者スポーツ」をテーマにしたことで「教科」の内容だけでなく、「教科」を越えた学習効果もあった。「パラリンピックと障害者スポーツ」をテーマにした学習のさらなる発展が期待できること。また、今回の講師選定の際に感じていたことであるが、さらなる地域人材の発掘、活用も期待できると考えられる。

○最後に、本校は、視覚特別支援学校との交流が毎年複数回あること、NIE活動により各教室に新聞が毎日2紙届けられること、全教職員が協力的であったことなど環境面で恵まれすぎているくらいであった。また、講師の方や関係団体も協力的で、限られた時間の中での取組としては成果も十分あり、来年度、さらに深めた取組ができることを期待し、現在計画中である。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

●学校全体で取り組む体制づくりが最も大切であると感じる。また、本学習をカリキュラムのどこに位置付けるかなど綿密な計画を立てることが大切である。